

香大生と地域の交流を促す アドプリプロジェクト

代表者 熊野 圭馬 (工学部信頼性情報システム工学科4年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、香大生と地域の交流を支援する広告付きコピー/プリントサービス(アドプリ)を実現することを目的としています。アドプリとは、香大周辺の地域情報を、コピーやプリントに利用するプリント用紙の裏面に広告として印刷することで、香大生に地域情報を提供するサービスです。地域情報を発信する団体・個人が用紙やトナーなどの運用に関わる物品の一部を負担することで、香大生は無料でコピーやプリントを利用することができます。本プロジェクトを推進することで、香大生が地域に目を向ける機会を増やす効果が期待できるとともに、香大生にとって利便性の高いコピー/プリントサービスの提供を実現します。

また、本プロジェクトでは、香大生の属性(学年, 学部, 性別など)に応じ、広告として提供される情報を変更することができる広告印刷機能を、印刷機やコピー開発のメーカーと連携して開発します。

2. 実施期間(実施日)

平成26年7月15日 から 平成27年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

● 成果の内容

○ プリンタの調達および運用場所の確保

プリンタを運用する場所を確保するために、香川大学総合情報センターの職員の方々に協力していただき、総合情報センター内のスペースをお借りすることができました。また、株式会社リコージャパン様に協力していただき、システム開発に必要な拡張機能を持っている特別なプリンタをお借りすることができました。

○ システムの開発

アドプリを実現するためにシステムの開発を行いました。このシステムは、学生がパソコンの Web ブラウザを用いて印刷したい原稿をアップロードできます。アップロードした

原稿には広告が挿入され、プリンタで印刷することができます。開発したシステムとシステムの操作方法を以下に示します。

学生はパソコンの Web ブラウザを利用してアドプリの Web ページ (<http://planetarian.eng.kagawa-u.ac.jp>(2015.02.19時点のもの))にアクセスします。アクセスすると図1のログイン画面が表示されます。

図1は原稿をアップロードする際にユーザ認証を行うログイン画面です。初めてアドプリアを利用する人は、画面下部の「はじめての方はこちらをクリック」というボタンを押します。ボタンを押すと図2のユーザ新規登録画面に移動します。すでにユーザ登録を済ませている人は、アカウント名とパスワードを入力して「ログイン」ボタンを押すと、図3の原稿管理画面に移動することができます。

図2はアドプリアのユーザ登録を行う画面です。ユーザ登録画面では、大学のメールアドレス、パスワード、年齢、性別を入力し「新登録」ボタンをクリックします。「新規登録」ボタンを押すとユーザ登録が完了し、図3の原稿管理画面に移動します。

アドプリア

アドプリアへようこそ

『アドプリア』とは、香大周辺の地域情報を、プリントサービスの裏面に広告として印刷することで、香大生へ地域情報を提供するプロジェクトです。

広告主が用紙や運用に関わる物品を負担することで、無料でプリンタを利用することができます。

現在は学内の情報のみを提供してテスト運用を行っています

本プロジェクトは香川大学の『夢チャレンジプロジェクト事業』に採択され、支援を受けています。

Powered by **RICOH**

◎香川大学 夢チャレンジプロジェクト事業「香大生と地域の交流を促すアドプリアプロジェクト」

ログイン

アカウント名 (例: s10i200)

パスワード

ログイン

はじめての方はクリック

図1. ログイン画面 (原稿アップロード)

新規登録

大学メールアドレス

「kagawa-u.ac.jp」で終わるメールアドレスです。

パスワード

大学メールのパスワードと同じである必要はありません。

パスワード (確認)

年齢 歳

男性 女性

新規登録

全ての項目を入力してください。

図2. ユーザ新規登録画面

図3は原稿のアップロード、削除などの原稿管理を行う画面です。原稿管理画面に移動すると、今までにアップロードされた原稿の一覧が表示されます。それぞれの原稿には、ファイル名、ページ数、部数、アップロード日時が表示され、ファイルの確認と削除を行うことができます。「アップロード」ボタンを押すと図4のウィンドウが表示されます。図4のウィンドウでアップロードしたいファイルを選択し、「アップロード」ボタンを押すと、図3の原稿管理画面の原稿一覧にアップロードしたファイルが追加されます。

	ファイル名	ページ	部数	アップロード
	11t229.pdf	3	1	02/19(木) 13:26
	アドブリ広告募集用ポスター.pdf	1	1	02/19(木) 13:24
	操作手順書(原稿印刷画面).pdf	2	1	02/19(木) 13:23

© 香川大学 夢チャレンジプロジェクト事業「香大生と地域の交流を促すアドブリプロジェクト」

図3. 原稿管理画面

原稿をアップロード

11t229.pdf

⚠ 「fakepath」と表示されてもアップロードできます。
 ⚠ PDFは5MB以下、5ページ以下、A4以下にしてください。

⚠ 最大部数は5部です。

アップロード キャンセル

図4. 原稿アップロード画面

原稿をアップロードした後は、プリンタのタッチパネルを操作して原稿を印刷します。

図5は原稿を印刷する際にユーザ認証を行うログイン画面です。ログイン画面では、図2のユーザ登録画面で登録したアカウント名とパスワードを入力します。入力した後「ログイン」ボタンを押すと図6の原稿印刷画面に移動します。

図6は原稿の印刷を行う原稿印刷画面です。原稿印刷画面では、今までアップロードした原稿の一覧が表示されます。各原稿の左側に配置されてある「印刷」ボタンを押すことでプリンタが稼働し、印刷を実行することができます。

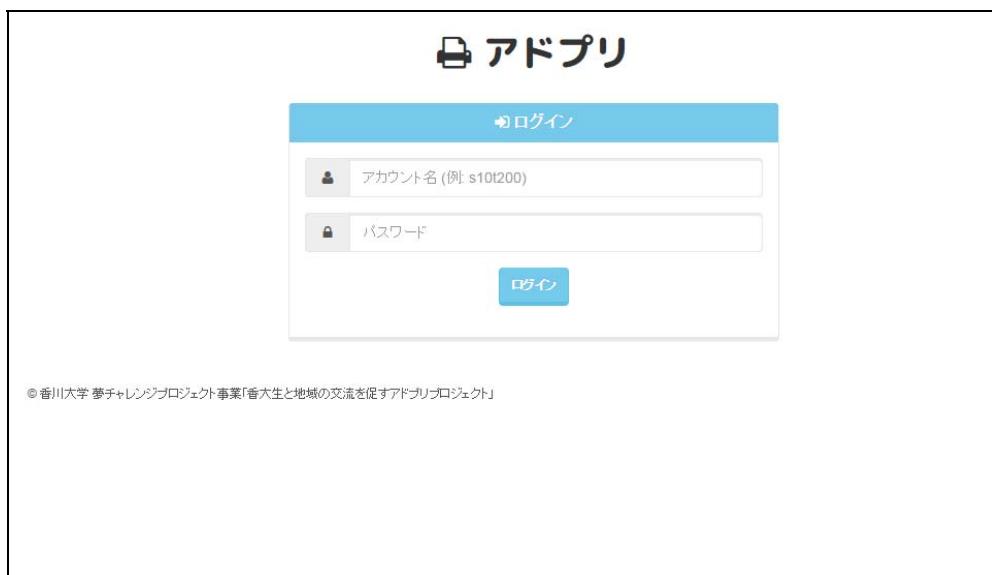


図5. ログイン画面（プリンタ）



図6. 原稿印刷画面

○ 広告の収集

開発したシステムのシステムテストを行うために、香川大学の部活動・サークル活動の部員募集の広告を収集しました。合計8つの部活動・サークル（卓球部、アイファ、アンサンブルコンブリオ、野外活動部、ICES、SLP、RISE写真部、競技ダンスサークル）から広告を提供していただきました。



図7. 提供していただいた広告の1例

○ アドプリの稼働準備

総合情報センターの職員方とアドプリア運用を行う上での注意事項や今後の予定などについて話し合い、アドプリアの稼働準備を行いました。現在、アドプリアを稼働するための準備は整っており、数日中に稼働する手はずとなっています。プリンタは現在、総合情報センターのオープンスペース2に設置してあります。



図8. オープンスペース2に設置されたプリンタ

● 分析と評価

システムの開発では、総合情報センターの職員方と打ち合わせを重ねて改良を加えたため、完成度の高いシステムとなりました。職員の方からも好評価をいただいております。

また、当初の予定では、地域の広告を収集し、システムで利用する予定でしたが、学内情報の収集のみにとどまってしまいました。プリンタの確保や設置スペースの確保などのシステムの運用の体制を整えるのが原因でした。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

現在、システム運用を開始する直前の状況であるため、この事業が本学や地域社会に与えた影響を調査することができていません。しかし、このシステムが稼働すると、本学や地域社会に様々な影響を与えることができると考えております。

本学に与える影響としては、広告を通じて学生への情報発信を行い、広告の内容に応じた行動を誘発できると考えております。たとえば、今回のプロジェクトで収集した部活動・サークルの広告であれば、広告を閲覧した学生が部活動・サークルへ入部するといった行動を引き起こすことができます。

地域社会に与える影響としては、本学に与える影響と同様に、広告の内容に応じた行動を誘発できると考えております。たとえば、地域のお祭りやボランティア活動等の広告を掲載することによって、学生のお祭りへの参加や、ボランティア活動への参加を促すことができます。また、それら地域活動への参加を通じて、学生と地域の間を深めることができます。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトは、プリンタ業者の方や、大学職員の方など多くの社会人の方たちに協力していただきながら活動を行いました。今までの学生生活でこのような機会にめぐまれなかった私たちにとって、非常に貴重な経験となりました。その中でも大学職員の方に指摘していただいた、システム運用に関する問題点は、開発することだけに重点をおいていた私たちにとって、想像できないことばかりだったので、とても勉強になりました。このような経験を通じて、これからのプロジェクト推進を考える際には、もっと多くのことを学ぶ必要があると痛感しました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

本プロジェクトでは、プロジェクトメンバーを広告収集班、システム開発班、プリンタ調達班など、いくつかのグループに分けて、グループごとに活動を行っていました。メンバーをグループに分けることによって、メンバー1人1人の役割を明確にすることができました。しかし、グループ間の連絡を密にとっていなかったため、進捗状況を把握することができないという問題がありました。今後のプロジェクトを推進するにあたって、グループ同士の連絡をしっかりと行いたいと思います。

今後の計画として、システムのテスト運用を行い、アプリの利便性に関するアンケートを利用者に実施します。また、アンケートの調査結果を考慮し、システムに更なる改良

を加えていきたいです。

今までのプロジェクト活動を通じて、社会人の方に対するマナー、システムの開発・運用の心得、プロジェクトを計画通りに進める難しさなど多くのことを学ぶことができました。これらの経験を生かして今後のプロジェクト活動を円滑に進めていきたいと思えます。

7. 実施メンバー

代表者	熊野 圭馬 (工学部 4 年)		
構成員	上田 智昭 (工学研究科 2 年)	白神 真登 (工学研究科 2 年)	
	福武 久史 (工学研究科 2 年)	荒尾 拓矢 (工学研究科 1 年)	
	太田 和也 (工学研究科 1 年)	田中 翔也 (工学研究科 1 年)	
	難波 宅磨 (工学研究科 1 年)	吉田 直弘 (工学研究科 1 年)	
	玄馬 史也 (工学部 4 年)	島川 大輝 (工学部 4 年)	
	高田 良介 (工学部 4 年)	谷本 祐次 (工学部 4 年)	
	長尾 哲志 (工学部 4 年)	中川 晋平 (工学部 4 年)	
	溝渕 久哲 (工学部 4 年)	森田 翼 (工学部 4 年)	
	藤澤 弘明 (工学部 3 年)	許 亮 (工学部 研究生)	